

みんな野球少年だった

井伊孝彦（絵） 小林桂子アネット（文）

少年野球だろうと高校野球だろうと、町角で野球の試合を見かけたら立ち止まって見物している。山なりの投球も、1バウンドの1塁送球も、連続押し出しも、3者連続三振も、食い逃げも、バンザイ落球も、ダブルプレーも、ホームランもそれぞれに楽しい。

最初にグラブを持ったのは小学校の4年生のことだった。それは友達に貰ったイエローオーカーのグラブだった。日曜日だけは朝の5時に公園に出掛けた。学校から帰るとグラブを持ってまた学校に出掛けた。ユニフォームは持っていなかったから少年野球のチームには入れなかった。みんな三塁を守りたがった。自動車の修理工場と印刷屋の子供が一番野球がうまかった。いつも近くの工場のカベに向かってでキャッチボールをした。

ケビン・コスナーの「フィールド・オブ・ドリームズ」もおもしろかったけど、「瀬戸内少年野球団」は感動した。「プリティ・リーグ」と「がんばれベアーズ」はビデオで観た。

そのころはみんな野球少年だった。



みんな野球少年だった

井伊孝彦作品集